

■ 標本空間 Ω の部分集合の族 \mathcal{F} が σ 集合体である, つまり,

- (i) $\Omega \in \mathcal{F}$ である,
- (ii) $A \in \mathcal{F}$ ならば $A^c \in \mathcal{F}$ である,
- (iii) $A_k \in \mathcal{F}$ ($k = 1, 2, 3, \dots$) ならば $\bigcup_{k=1}^{\infty} A_k \in \mathcal{F}$ である,

をみたすとき, 次が成り立つことを示せ.

- (1) $\emptyset \in \mathcal{F}$ である.
- (2) $A, B \in \mathcal{F}$ ならば (a) $A \cup B \in \mathcal{F}$, (b) $A \cap B \in \mathcal{F}$, (c) $A \subset B \in \mathcal{F}$ であることを示せ.

(解) (1) 性質 (i), (ii) より $\emptyset = \Omega^c \in \mathcal{F}$ である. (2) 性質 (iii) において $A_1 = A$, $A_2 = B$, $A_k = \emptyset$ ($k \geq 3$) とおくと, $X \cup \emptyset = X$ より

$$A \cup B = A \cup B \cup \emptyset \cup \emptyset \cup \dots = \bigcup_{k=1}^{\infty} A_k \in \mathcal{F}$$

である. (ii) より $A^c \in \mathcal{F}$, $B^c \in \mathcal{F}$ であるから, $A^c \cup B^c \in \mathcal{F}$ となり, (a) と (ii) を用いて $(A^c \cup B^c)^c \in \mathcal{F}$ が得られる. ド・モルガンの法則より

$$A \cap B = (A^c \cup B^c)^c \in \mathcal{F}$$

である. (b) と (ii) より $A \setminus B = A \cap B^c \in \mathcal{F}$ である. ■